Cross-sectional Study on the Effects of Socioeconomic Factors on Lead Exposure in Children by Gender in Serpong, Indonesia

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2013-03-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Dewi, Utami　Iriani メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2001332

順天堂大学　博士(医学)

氏名　Dewi Utami Iriani

論文題名　Cross-sectional Study on the Effects of Socioeconomic Factors on Lead Exposure in Children by Gender in Serpong, Indonesia

(インドネシア国セルポン地域における小児の鉛曝露への社会経済因子の影響と その性差との関連)

論文内容の要旨

インドネシア共和国バンテン州セルポン地域において，　小児の鉛曝露に影響する社会生活因子を明らかにすることを目的に疫学調査を行った。

セルポン地域の 39 校の小学校から無作為に選択した 6 ～ 7 歳の児童 108 名（男子 56 名，女子 52 名）　を対象とした。　社会経済因子に関する質問紙調査は保護者に記入してもらった。　血液中鉛濃度は原子吸光光度計を用いて測定を行った。

対象児全員の血液中鉛濃度　（平均±標準偏差（濃度範囲））　は 6.4±2.0μg/dl　であった。これら血液中鉛濃度には性差が認められ，　男児　（6.8±2.0　（2.912.5）　μg/dl）　が女児　（5.9±1.9　（3.1±11.7）　μg/dl）　より有意に高かった　（p＜0.05）。

父親の収入，　母親の教育歴などが低い，　あるいは井戸水を飲料水に使用している場合，有意に血液中鉛濃度が高く，　この傾向は女児において顕著であった。　また井戸水の使用率は，　社会経済レベルが低い家庭において有意に高率であった　（p＜0.05）。

以上より，　低社会経済状態に伴う井戸水使用の結果，　小児の鉛曝露が高くなったと示唆された。こうした曝露には性による行動の違いが影響するものと思われる。10μg/dl　以上の血液中鉛濃度をもつ小児については，　特に介入が必要であると考えられる。